

令和7年度 第3回 社会福祉と動物愛護管理の連携のための研修会まとめ

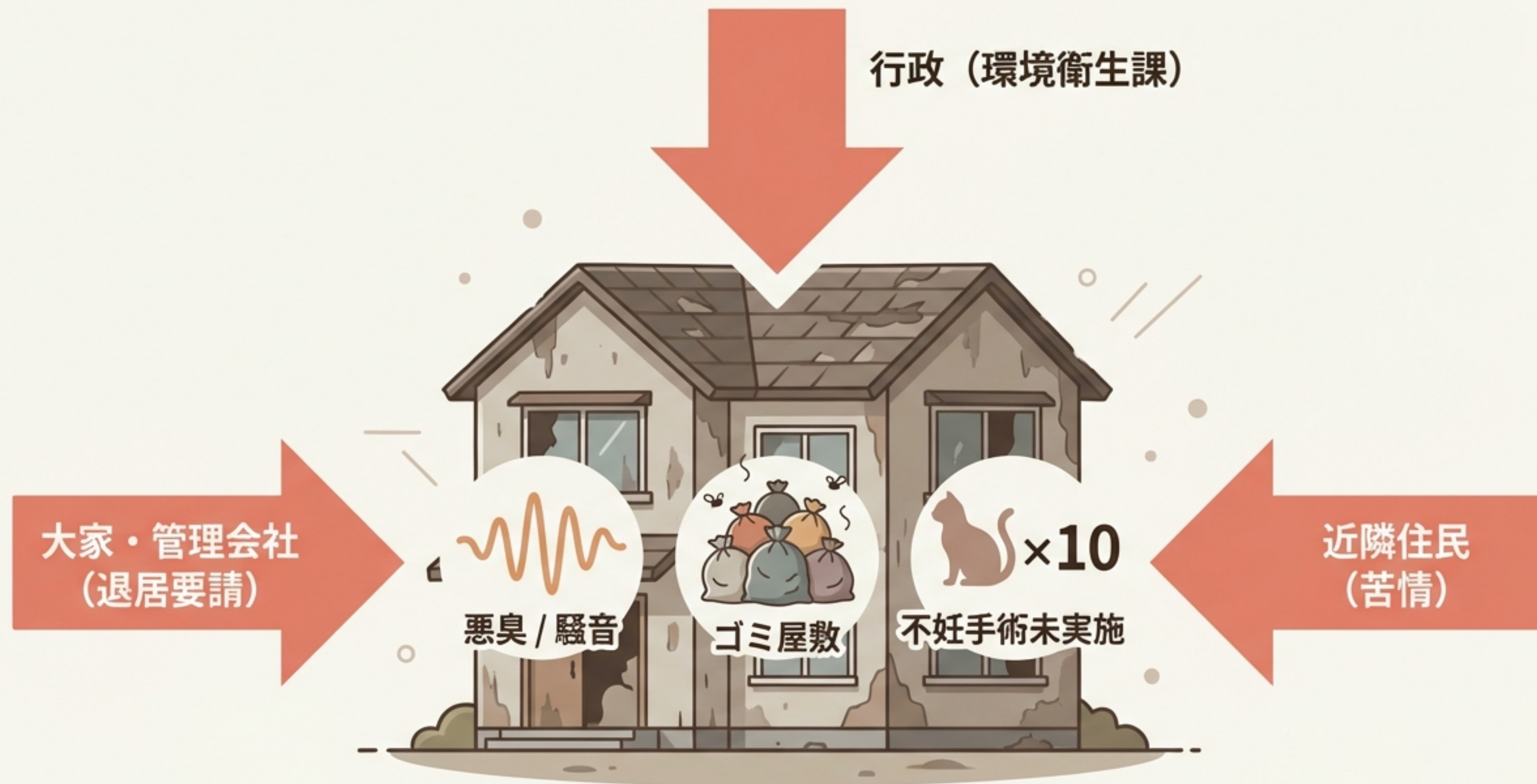


# 非難から支援へ

社会福祉と動物愛護管理の連携：多頭飼育問題への新しいアプローチ

**「飼い主の支援は動物救済の近道」**

# 迷惑の裏にあるもの：地域から見える景色



# 誰にも言えない本当の困りごと



「多頭飼育問題は、動物の問題ではなく、人の福祉の危機です。」

# 解決への地図：川上から川下へ



# 現状の課題（川下・現在）： なぜ介入が難しいのか



**拒絶**  
(相談できない)

**資金不足**  
(手術費なし・滞納)

**縦割り行政**  
(福祉と動物の  
連携不足)

**地域からの孤立**  
(自治会未加入)

# 危機対応のアクション：生活と環境の安定化



## 不妊手術の 実施

Noto Sans JP  
繁殖を直ちに止める



## 医療・生活保 護の検討

Noto Sans JP  
生存権を守る



## 清掃・環境 改善

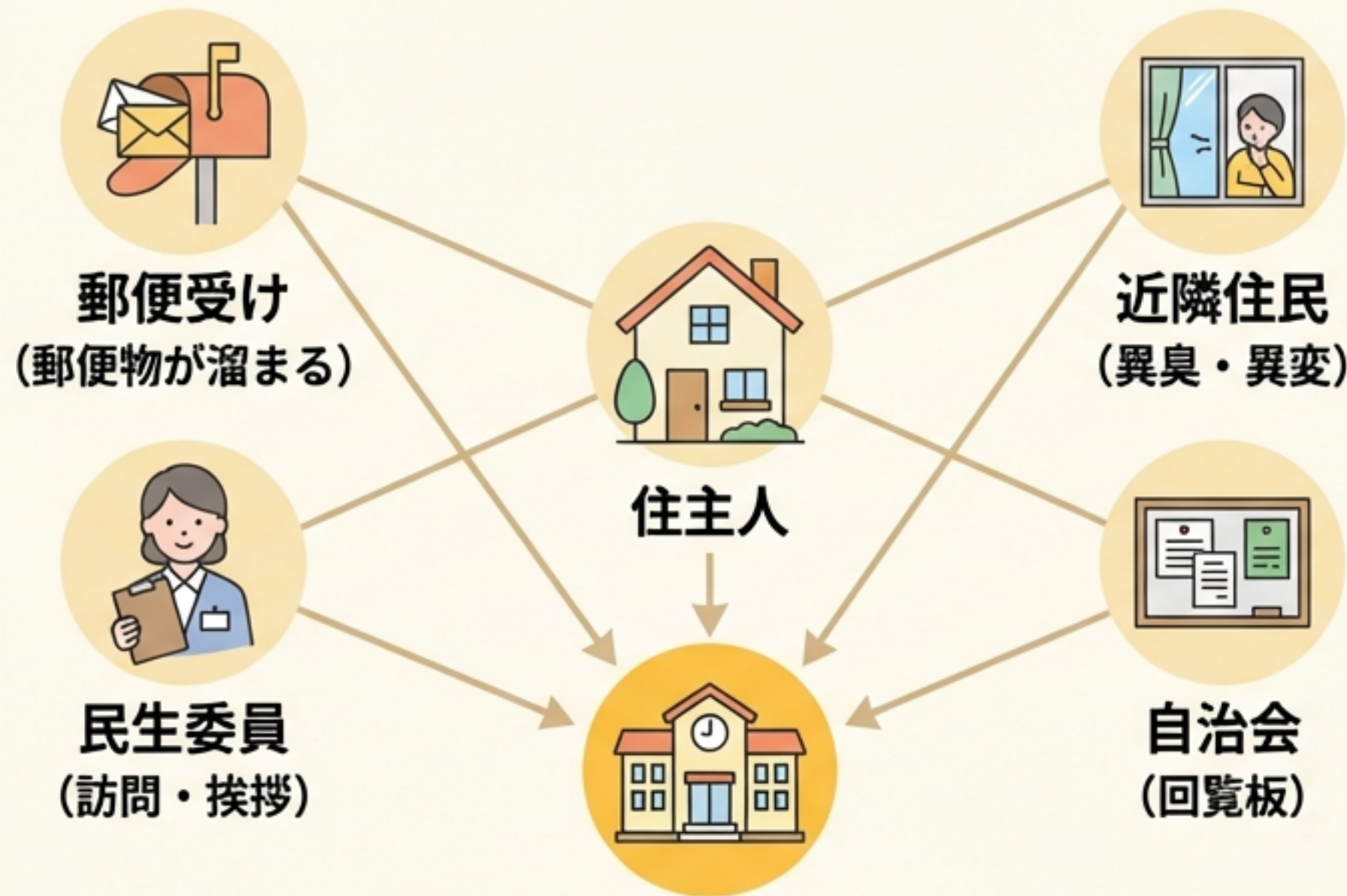
Noto Sans JP  
悪臭の除去・ゴミ処理



## 頭数制限 (譲渡)

Noto Sans JP  
適正数への移行

# 早期発見の仕組み（川上）：地域の「目」を活かす

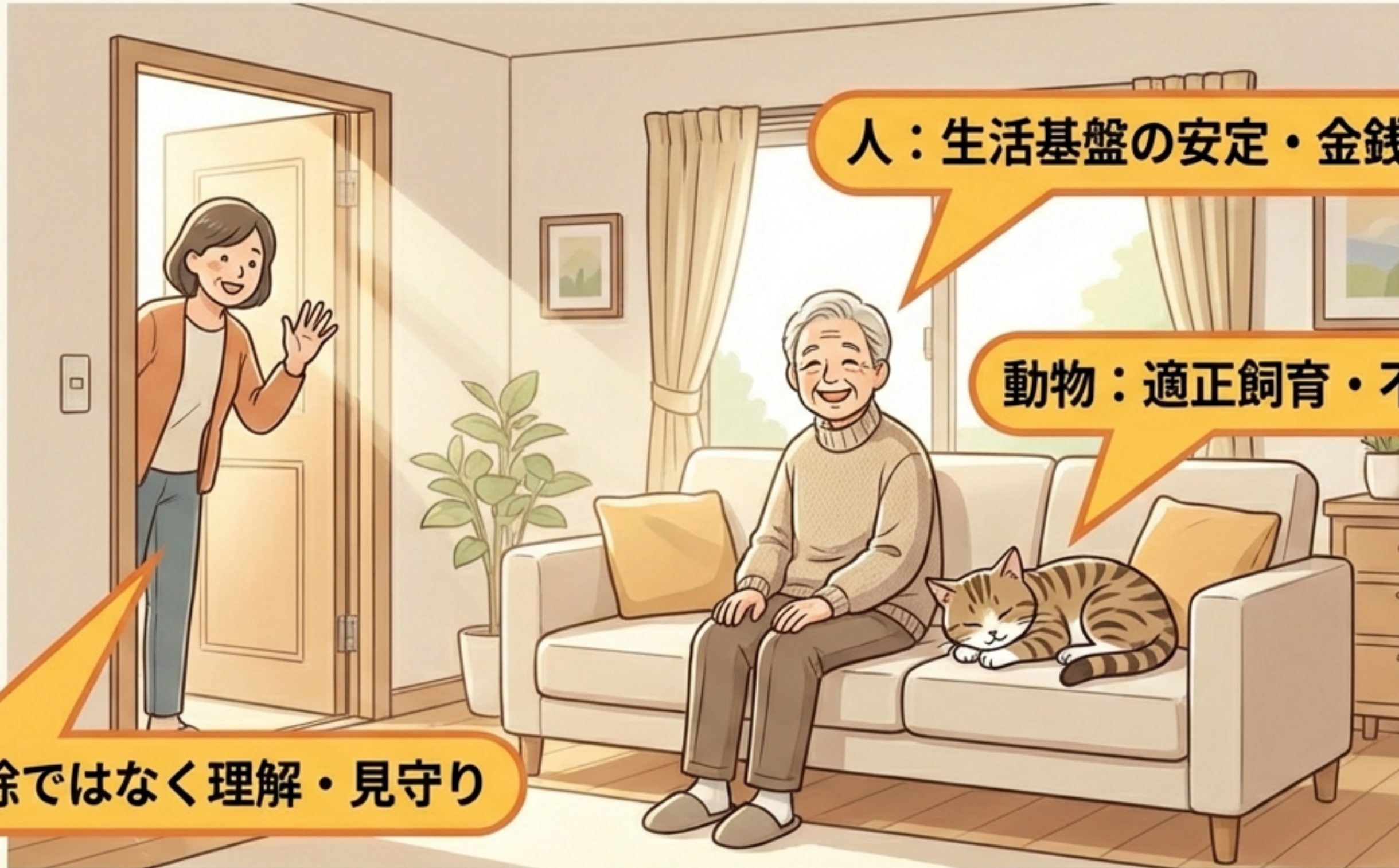


苦情ではなく「心配」として連絡

## 気づきのポイント

- 郵便が溜まっている
- 異臭がする
- 同じ服を着ている
- 姿を見かけない

# 目指すべき未来図：孤立から共生へ



人：生活基盤の安定・金銭管理

動物：適正飼育・不妊去勢済み

地域：排除ではなく理解・見守り

# チームで動く：役割分担と連携



お互いの強みを知ってチームで動く

# 本人ができること・支援されること

## 理解と覚悟



- 適正飼育の理解（10頭以上の届出）
- ネコから離れる覚悟（ダウンサイジング）

## 生活の再建



- 金銭管理（年金内で医療・餌代を）
- 相談のドアを開ける

# 住民・地域ができること

孤立させない

挨拶や声かけを続ける

情報のつなぎ

苦情ではなく「心配」として  
支援センターへ

理解する

「だらしない」ではなく  
「病気・困りごと」と捉える

緩やかな  
見守り

地域の中で気にかける



# ケーススタディ：Aさんの変化

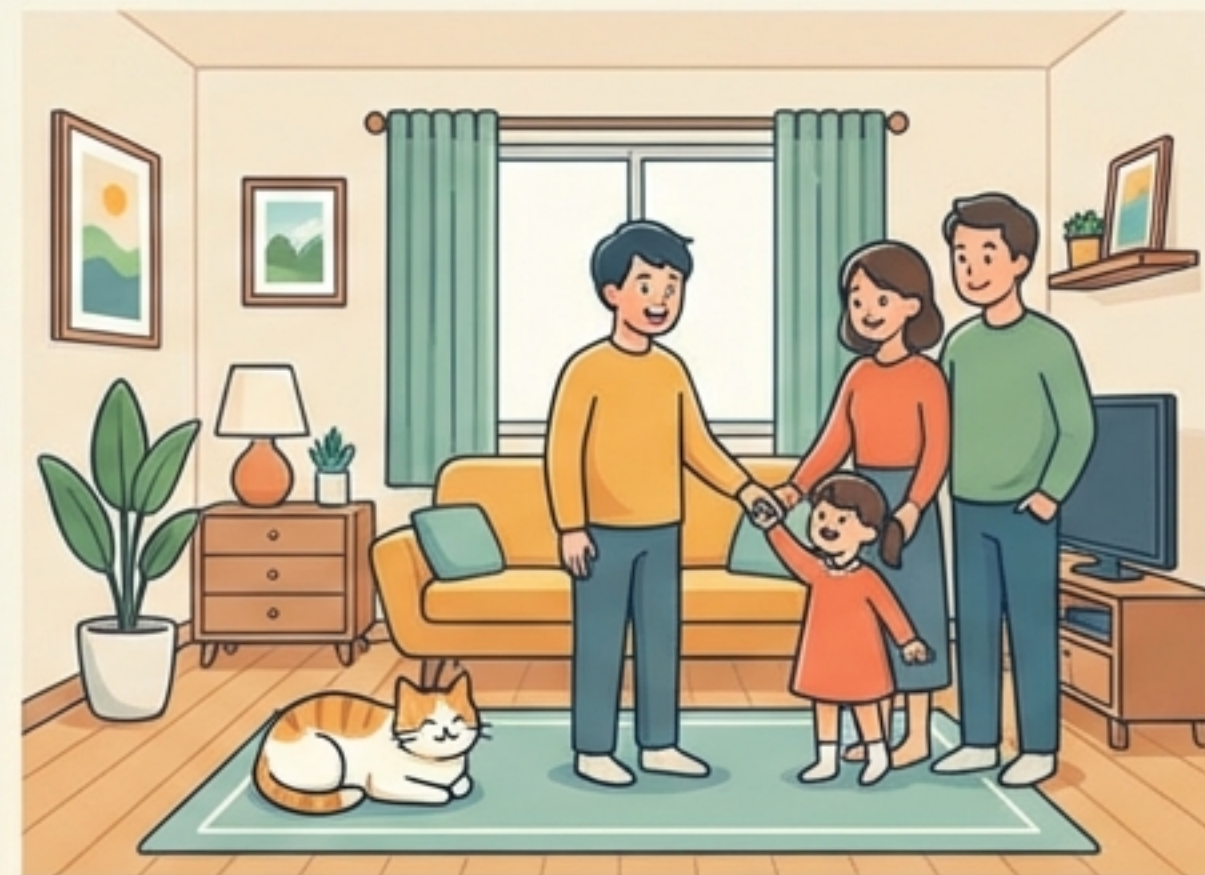
Before



9頭の猫・汚部屋・孤立  
「猫カフェをやりたかったが失敗」

介入  
(福祉×動物愛護)

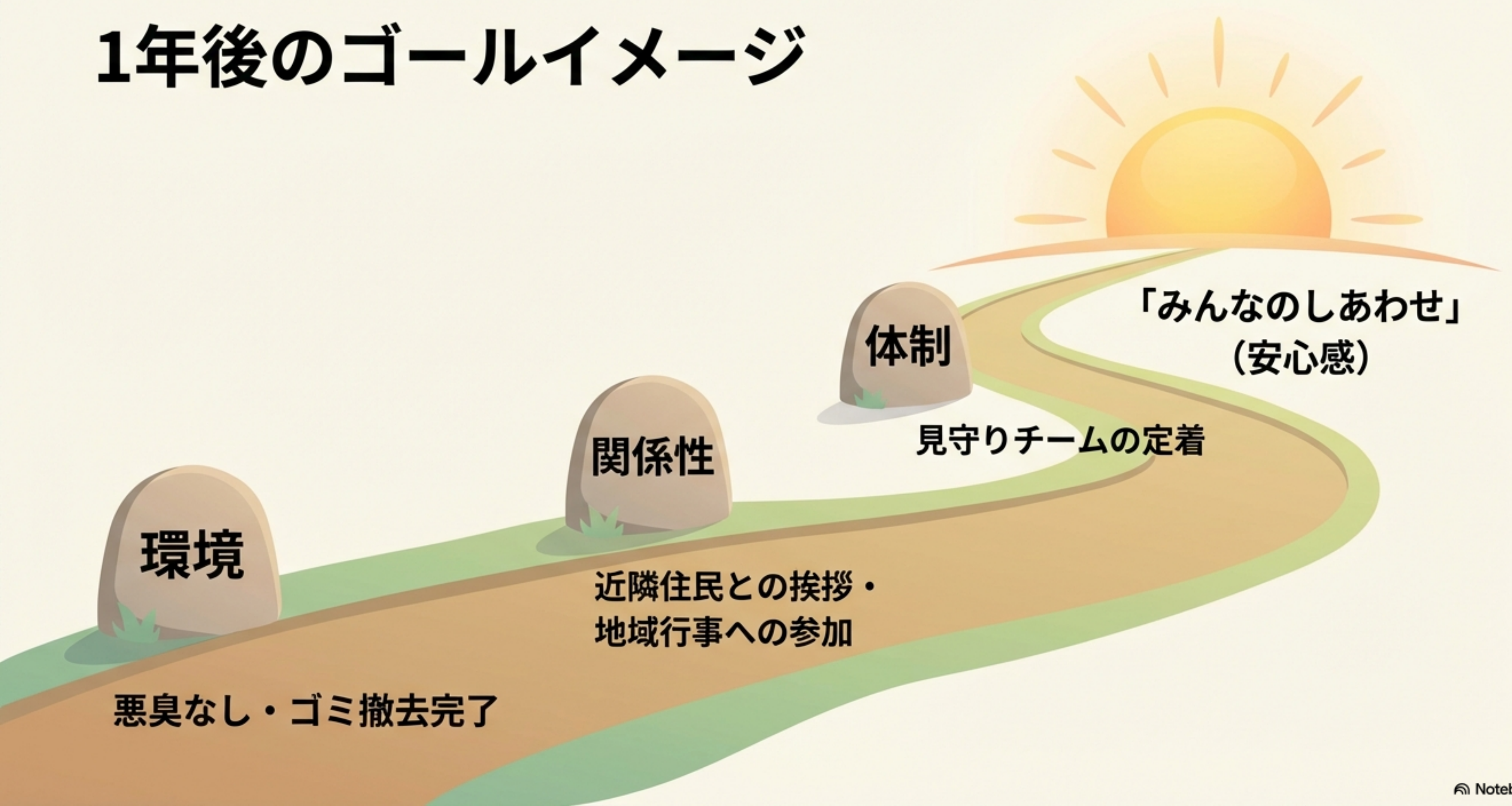
After



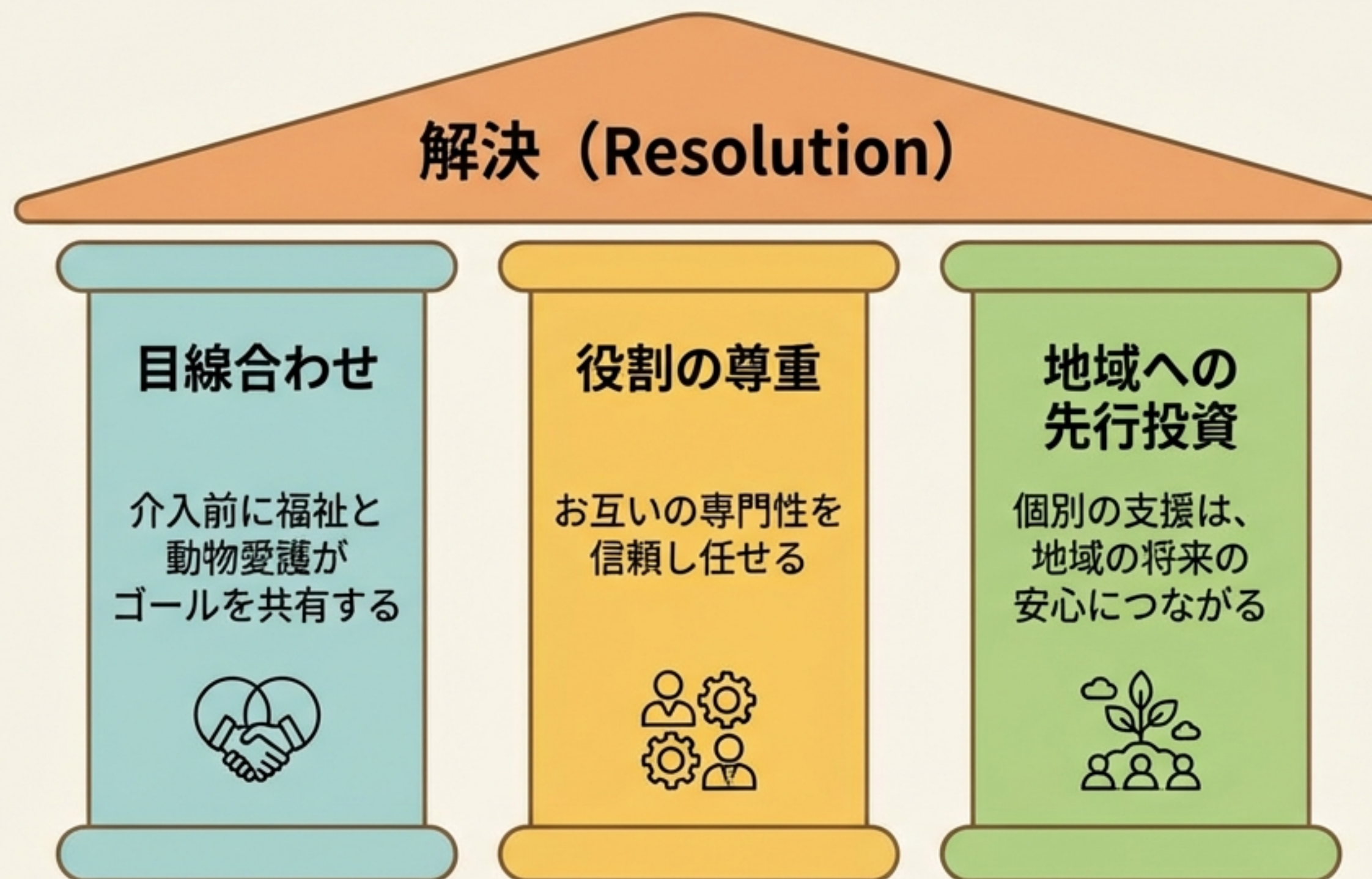
1頭と暮らす・部屋の清掃  
家族との関係修復

ゴールは「猫ゼロ」ではなく「持続可能な生活」

# 1年後のゴールイメージ



# 研修からの学び：連携のポイント





# 「飼い主の支援は、動物救済の近道です」

孤立を防ぎ、地域で支える社会へ。